

「愉フォロ会」開催のお知らせ

第11回幼児教育史学会大会（於 福山市立大学）の翌日、12月6日（日）の午後、「若竹の園」にて「海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会」（通称；愉フォロ会）を下記のように開催いたします。小さな研究会ですが、毎年、大会翌日に集まる時間を設けてまいりました。今年もみなさまにお目にかかれることを愉しみにしております。

興味のある方、どなたでもご参加ください。岡山県倉敷市の「若竹の園」（倉敷市中央 1-6-12）見学後に、研究会への参加も予定に加えていただければと存じます。

記

日時；2015年12月6日（日）13時～15時

場所；「若竹の園」

内容；宮地和樹さん、宇内一文さんからの研究報告

報告概要

香川短期大学 宮地和樹さん

【タイトル】 「幼児教育に対するリベラリズム的アプローチ
—スウィフト&ブリッグハウスの所論に着目して—」

【概要】

幼児教育と社会・政治思想は、ロバート・オウエンにみられるように、幼児教育が公的な領域に現れたときから密接な関係を持っていた。現代においては、リベラリズム、コミュニタリアニズム、フェミニズムなどの多様な政治思想が幼児教育を含む教育思想に流れ込んでいる。本発表では、特に英米系のリベラリズムの論者であるアダム・スウィフトとハリー・ブリッグハウスの近著『家族の価値—親子関係の倫理学—』（2014）を検討することで、幼児教育をリベラリズムの立場から検討するとともに、その限界を探りたい。

山陽学園短期大学 宇内一文さん

【タイトル】 「未感染児の「隔離」と保育 —保育日誌から読むハンセン病問題—」

【概要】

本報告では、国立らい療養所付属の「未感染児保育所」に預けられた子どもへの保育の理念と実践に迫るべく、長島愛生園・神谷書庫(岡山県)に断片的に保管されている「保育日誌」の内容を検討する。そのことを通して、隔離政策下における未感染児の保育の実態の一端を明らかにしたい。

なにかございましたら、塩崎（日本福祉大学）shiozaki@n-fukushi.ac.jp までご連絡ください。